

英国ミルトン・キーンズにおけるアーカイブの概要とその意義 —計画住宅地におけるアーカイブに関する研究—

正会員○田中康裕*

計画住宅地 ニュータウン アーカイブ 歴史 イギリス チャリティ

1. 研究の背景と目的

我が国初の大規模ニュータウン（以下NT）である千里NTが開発されてから半世紀になる。近年ではNTが歴史の対象として捉えられ、いくつかのアーカイブ^{*1)}の取組が行われつつある^{*2)}。

一方、我が国より早くから計画住宅地が開発されてきた欧米には、まちびらき50年をきっかけとして、地域の歴史を展示するコミュニティ・ミュージアムが開かれている計画住宅地もあることが報告されている^{*文2,3)}。

計画住宅地の価値を継承し、それを持続可能なものとするうえでアーカイブは重要であり、今後、後続して開発された計画住宅地においてもアーカイブの取組の機運が高まると考えられる。本稿では、ある特定の地域におけるアーカイブの広がりとその意義を明らかにすることを通して、我が国の計画住宅地でアーカイブを築いていくための知見を得ることを目的とする。

2. 調査方法

本稿の調査対象は英国のミルトン・キーンズ（以下MK）である。NT指定は1967年、開発された29^{*3)}のNTの中で最大規模のNTである^{*4)}。計画人口は25万人であるが、人口は増加し続けており^{*5)}、「英国のニュータウンのうちでもっとも成功したものの一つとされる」^{*文4)}。

本稿では、MKにおいてアーカイブにまつわる活動を行うグループの中で、NT開発を契機として立ち上げられた3つの主要なグループ、「シティ・ディスカバリー・センター」（以下CDC）、「ミルトン・キーンズ・ミュージアム」（以下MKM）、「リビング・アーカイブ」（LA）、及び、LAが運営する「ディスカバリー・ミルトン・キーンズ」（DMK）を調査対象として選定し^{*6)}、現地でのインタビュー調査（表1）、及び、現地とウェブサイトでの資料収集を行った。

3. 調査対象グループの概要

調査対象とする3つのグループは、25年～40年と長期

にわたって活動を継続しており、いずれもチャリティ団体として登録されている（表2）。そして、収集した歴史的資料の展示にとどまらず、教育、環境、まちづくりなど多岐に渡る活動を行なっている（表3）。

4. 調査対象グループの活動

調査対象とするグループの活動は以下の通りである。

CDC（図1）は開発公社から資料を受け継いだグループであるが、受け継いだ資料を保管するのみでなく、新聞記事のスクラップや寄贈資料を受け付けることで、現在でも継続的に資料を収集し続けている。資料はライブラリで公開されているほか、教育プログラムも行なっている。

MKM（図2）は、住民グループがNT開発によって閉鎖された農場や工場の物を収集し始めたことがきっかけと

表1. 現地調査の概要

調査対象グループ	現地調査日	インタビュー対象者
シティ・ディスカバリー・センター (CDC)	2010.04.30	A氏 (Director) M氏 (Librarian)
ミルトン・キーンズ・ミュージアム (MKM)	2010.04.30	—
リビング・アーカイブ (LA)	2010.05.04	J氏 (General Manager) K氏 (co-Founder)
ディスカバリー・ミルトン・キーンズ (DMK)	2010.04.30 2010.05.04	B氏 (Manager)

※インタビュー対象者の肩書きは調査時のものである。

表3. 調査対象グループの活動内容の概要

活動内容		CDC	MKM	LA
活動領域	一般的な慈善事業	○		
	教育・トレーニング	○	○	○
	芸術・文化・歴史・科学	○	○	○
	環境・自然保護・遺産	○	○	○
	経済・まちづくり・雇用	○		○
	その他	○		
提供するもの	人的資源			○
	建物・施設・オープンスペース	○	○	○
	サービス	○		○
	アドボカシー・アドバイス・情報	○		○
その他	○			

※「The regulator for charities in England and Wales」ウェブサイトに記載のデータより作成

表2. 調査対象グループの活動概要

	シティ・ディスカバリー・センター (CDC)	ミルトン・キーンズ・ミュージアム (MKM)	リビング・アーカイブ (LA)	ディスカバリー・ミルトン・キーンズ (DMK)
設立年	1987年	1973年	1984年	2008年
チャリティ団体登録	19887年	1990年	1994年	—
活動の概要	開発公社から引き継いだニュータウン開発にまつわる資料のアーカイブ。教育プログラムの実施。12世紀の修道院 (Bradwell Abbey) の運営。	住民グループが、ニュータウン開発により閉鎖した農場や工場の物を収集し始めたことがきっかけとなりオープン。1989年に「Milton Keynes Museum」と改称。	地域のドキュメンタリー演劇の制作、居住者のオーラル・ヒストリーの収集を行っていた2人の活動がきっかけで設立。地域の思い出を素材とする演劇、ミュージカルなどの作品を制作。	歴史とアートにまつわる活動を行なうグループのための「ショーケース」として、センター地区ショッピングセンターの空店舗を活用してオープン。
2010年度の活動予算 (収入/支出)	£201,831 / £225,760 (30,274 (千円) / 34,089 (千円))	£143,204 / £202,319 (21,767 (千円) / 30,954 (千円))	£177,057 / £197,669 (27,266 (千円) / 30,638 (千円))	—
活動拠点があるエリア	Bradwell Abbey (1992年～)	Wolverton	Wolverton	The Centre:MK
開館日時	月～金 9:30～13:00 ※ライブラリの開館日時	水～日 (4月1日～10月31日) 土・日 (11月1日～3月31日) 11:00～16:30	—	月～土 10:00～18:00
入場料	無料 ※資料のコピー、スキャン可 (有料)	大人: £7.50 割引料金: £6.00 家族 (大人2人+子供4人): £22.00	—	無料

※活動予算は「The regulator for charities in England and Wales」ウェブサイトに記載のデータ。表中では£1 = 150円で換算した。

※ディスカバリー・ミルトン・キーンズ (DMK) は、現在 (2013年3月時点) ミルトン・キーンズ内の3図書館内に開設されている。

※活動拠点欄の、Wolvertonはニュータウン開発前からの集落があるエリア。The Centre:MKはセンター地区のショッピングセンターの名称。

Overview and significance of Archives in Milton Keynes, UK
- A Study on Archives in Planned Communities -

TANAKA Yasuhiro



図 1. シティ・ディスカバリー・センターのライブラリ



図 2. ミルトン・キーンズ・ミュージアムの展示



図 3. リビング・アーカイブの活動

なって設立された。収集された資料は、開発公社から利用の許可を受けた農家・農園⁷⁾で展示されている。MKMでも教育プログラムの提供や資料の貸出が行われている。

LA (図 3) はアートと歴史の分野の 2 人の活動がきっかけとして生まれたグループである。地域の歴史はミュージアムに展示する静的なものではなく、人々を地域に巻き込むために共有すべきものと捉えられており、住民の思い出を素材とした多様な作品が制作されている。そして、こうした制作を行うことで、結果として写真やインタビューがアーカイブとして蓄積されることになった。

DMK (図 4) は歴史とアートにまつわる活動を行なうグ



図 4. ディスカバリー・ミルトン・キーンズの活動

- 開発後だけでなく「開発前の歴史をも含んだアーカイブ」
 - ・ニュータウン開発で閉鎖される農場や工場の物を収集 (MKM)
- オフィシャルな主体が作るだけでなく「個人を契機とするアーカイブ」
 - ・住民グループが物を収集し始めた (MKM)
 - ・誰にもでも語るべき物語がある (LA)
- 開発時の (昔の) 資料保存だけでなく「活動とともに増え続けるアーカイブ」
 - ・作品作りの結果として偶然アーカイブが蓄積された (LA)
 - ・新聞記事のスクラップ、寄贈資料の受付 (CDC)
- 展示室の中の静的なものだけでなく「気軽にアクセスし共有できるアーカイブ」
 - ・バスチケット購入のついでに立ち寄ってもらう (DMK)
 - ・思い出を素材として作りあげた作品を還元する、共有する (LA)

図 5. ミルトン・キーンズにおけるアーカイブの意味

ループのための「ショーケース」である。ミュージアムに足を運ばない人に、歴史やアートに触れてもらうための試みとして、ショッピングセンターの空店舗を活用して開かれた場所であり、LA が運営を担当していた⁸⁾。

5. まとめ

MK は開発公社により、NT 指定以降に急激な開発が行われた地域であるが、本稿でみたように、MK におけるアーカイブは、オフィシャルな主体による開発の歴史の保存だけにとどまらない広がりをもつことが明らかとなった (図 5)。アーカイブをこのような広がりをもったものとして捉えることは、我が国の計画住宅地の価値を継承し、それを持続可能なものにしていく上で重要になると考える。

調査にご協力くださった皆様に感謝の意を表します。

〈注〉

- *1) 本稿ではアーカイブを「個人や組織が作成した記録や資料を、組織的に収集し保存したもの。また、その施設や機関。」(文献 1) の意味で用いている。
- *2) 例えば、吹田市立博物館では、2006 年と 2012 年に千里 NT の歴史を対象とする特別展が開催された。
- *3) 1946 年～1970 年の 25 年間に指定された NT の数。ただし北アイルランドを除く (文献 4)。
- *4) NT とは区別して「ニューシティ」と呼ばれることもある。
- *5) 2011 年の予想人口は 245,750 人、2012 年の予想人口は 284,800 人 (文献 5)。
- *6) アーカイブにまつわる活動を行うグループが掲載されたウェブサイト (Milton Keynes Heritage Association) には、2013 年 3 月時点で 56 のグループが掲載されている。このうち、CDC、MKM、LA が主要なグループであることは、CDC の A 氏、DMK の B 氏の示唆による。
- *7) 農家・農園の所有権は、1989 年に NT 委員会に、1997 年に Borough に移管された。
- *8) 現在 (2013 年 3 月時点) は運営の方法が変更されている。

〈参考文献〉

- *文 1) 『「外来語」言い換え提案』国立国語研究所「外来語」委員会、2006
- *文 2) 松村秀一「モノが語る 20 世紀の構想力 2-その 3 還暦を迎えたレヴィットタウン」、『新建築』2008.06
- *文 3) 柴田建ほか「郊外住宅地における住環境の成熟プロセス: 米・グリーンベルトのノウハウによる共同マネジメント」、『日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東)』E-2 分冊, pp.203-204, 2006.09
- *文 4) 馬場健『戦後英国のニュータウン政策』敬文堂、2003
- *文 5) Population Bulletin 2011/12, Milton Keynes Council Chief Executive's Office, 2012